

日本RNA学会会報

No.19 (2009年1月)

目次

巻頭言	1
日本RNA学会 第5期役員 役員会議事要録	3
日本RNA学会 第10回総会報告	4
日本RNA学会 第5期拡大評議員会議事要録	5
2007年度日本RNA学会収支決算報告書	6
2008年度収支予算	8
第11回RNAミーティング (日本RNA学会年会) の 準備状況について	9

日本RNA学会
(THE RNA SOCIETY OF JAPAN)

wwwsoc.nii.ac.jp/rnaj/

巻頭言

FUJIYAMA RNA

産業技術総合研究所 廣瀬 哲郎

今年 Darwin 生誕 200 年にあたるそうです。Darwin 進化論のように、一つの「非常識な考え方」が人々の世界を一新してしまうことは確かに稀なことですが、規模は違えどそれに似た「非常識な事象」というものは案外身近に転がっているのかもしれませんが。21 世紀に入り大規模サイエンスの波が押し寄せた結果、ゲノム解析やトランスクリプトーム解析が進みました。そのおかげで「ヒトのゲノムは大部分が読まれるもの」という新たな視点が現れてきたのです。ゲノムから読まれている大量のノンコーディング RNA 群は、“genomic dark matter”とも呼ばれます。これまでそこにあるにも関わらず見えていなかった dark matter、天文学上のパラダイムシフトが、細胞の中でも起こったというのです。奇しくも今年国際天文年、一人の天才が自作望遠鏡を星空に向けたのが、Darwin よりさらに 200 年前のことでした。

さて、ゲノムから生まれた dark matter は一体何をしているのか？ これは未だ厚いベールに包まれています。果たして Crick のドグマを書き換えるような新しい世界が見えてくるのか？ はたまた取るに足らないジャンクとしてフェイドアウトしていくのか？ これに面と向かっている私たちには、これからの数年は期待と不安の入り交じった特別の時期になりそうです。

このような駆け出しのノンコーディング RNA 研究も、これまで培われてきたリボソーム、tRNA、mRNA に関する重厚な研究知見を頼らずして進める術はありません。RNA が関わる巧妙なメカニズムの数々は、現在世界の RNA 研究を先導している人たちの英知によって築き上げられてきたものです。2011 年、こうした世界中の RNA 研究者が“KYOTO”にやってきます。アジアで初めての RNA Society Meeting の日本開催が決まったのです。僭越ながら、私は中村会長の命により、昨年ベルリンで開かれた Meeting 会期中に Society 委員の前で、日本への Meeting 誘致のためのプレゼンテーションを行いました。Marv Wickens, Joan Steitz, Reinhardt Lührmann, Witek Filipowicz, Roy Parker など 40 名にも及ぶ錚々

日本RNA学会 第5期役員会議事要録

日時： 2008年7月23日(水) 12:10～13:10

場所： 札幌コンベンションセンター 会議室103号室

出席者：

5期評議員： 饗場弘二（副議長）、稲田利文、井上邦夫、大野睦人、坂本 博、
塩見美喜子、鈴木 勉、谷 時雄、中村義一（会長）、廣瀬哲郎

5期幹事： 坂本泰一、内藤 哲、吉久 徹

4期役員： 内海利男、河合剛太、塩見春彦、松藤千弥

欠席者： 阿形清和、井川善也

1. 中村会長が開会挨拶を行った。
2. 吉久庶務幹事が会員数推移を報告した。
3. 第11回年会について年会世話人の内海集会幹事から、候補日時・候補地（2009年7月27～29日・新潟市朱鷺メッセ）について、説明がなされた。
4. 稲田前会計幹事が2007年度の収支決算報告を説明し、この会計報告書が会計監査委員（岡田・吉久委員）によって承認されたことを報告し、承認された。引き続き、坂本会計幹事が2008年度予算案について説明し、承認された。
5. 内藤集会幹事から、7月23日時点の年会参加者数など、本年度年会の開催状況についての報告があった。
6. 中村会長より、第10回総会の議長候補として片岡直行氏を、副議長候補として比嘉三代美氏を推薦したいとの意向が伝えられ、承認された。
7. 中村会長より、第12回年会の世話人（第5期集会幹事）について、2011年に日本でInternational RNA SocietyのAnnual Meetingが開催される可能性を考慮し、集会幹事の選定には柔軟に対応したいとの意見が出され、了承された。
8. 中村会長より、2011年のInternational RNA SocietyのAnnual Meetingの日本招致について、宮崎と京都を候補地として本年のInternational RNA Societyの評議会にて提案することが諮られ、了承された。なお、本件に関しては中村会長の代理として廣瀬哲郎氏が同会に出席することも報告された。
9. その他
 - ・吉久庶務幹事より、年度途中の退会時の年会費請求に関する問題が提起された。これについて、慣例どおり、ア) 年度途中の退会者については半額の会費を徴収すること、また、イ) 長期未納者に関しては、前年度までの会費を学会事務局を通じて請求すること、が承認された。
 - ・吉久庶務幹事より、年会補助費の規模の推移に関して報告があり、これを年会運営に支障がない程度に適正化することが望ましいことが了承された。
 - ・吉久庶務幹事より、学会HPの改ざん事例が報告され、セキュリティーについて留意すべきことが報告された。

（庶務幹事：吉久 徹）

たるRNA学者が熱心に耳を傾けていました。実際のところ、誘致には「中国」という強力な対抗馬がありました。以前から中国側は、RNA Society委員に幅広い宣伝活動をしているという噂が流れてきており、さらには「アメリカ人は中国に決まったと思っている」という話すらあったほどです。直前の札幌でのRNA学会で私は、人々からの激励の言葉とは裏腹に相当憂鬱な気分になっていたのです。後日、Society委員の一人が話してくれたことには、「これまでの日本のRNA研究の実績」が日本開催の決め手になったそうです。「アジアで開催するなら、まず日本は外せないだろう」という共通の心情らしいです。これはひとえにこれまで日本のRNA研究をリードされてきた皆さんの息の長い積み重ねの賜物だと思います。「熱烈な宣伝活動よりも、飾らない中身の質が優った」というわけです。これを思うとうれしくなります。

世界の大御所たちも認めてくれる日本のRNA研究ですが、今後は世界の大御所たちを本気にさせるRNA研究をどんどん展開していかななくては、と思います。昨今のグローバリゼーションの潮流には逆行しますが、私はバックグラウンドの異なる人から生まれる「同じではない発想」を何より大切にすべきと考えます。日本フレイバーの独特の発想に周囲が唸ってくれたら、なんと痛快なことでしょう。ベルリンでのプレゼンテーションの最後に、日本をアピールするメッセージとして、Japan is a safe and clean countryと書きました。意外にもSociety委員たちには大ウケでしたが、ひょっとしたらこんなことをアピールする姿勢こそが日本的な（欧米にはない）ものと映ったのかもしれませんが。欧米とはひと味違う「らしさ」を目指して、ブレない姿勢のRNA研究をしていきたいと考えています。

日本RNA学会 第10回総会報告

日時： 2008年7月24日(木) 16:35～17:35

場所： 札幌コンベンションセンター

1. 中村会長が開会挨拶を行った。この中で、2011年 International RNA Societyの Annual Meetingの日本開催招致についての現状報告がなされた。
2. 総会議長に片岡直行氏、副議長に比嘉三代美氏を選出した。
3. 委任状(41通)および議場参加者(99名)の確認を行い、総会成立に必要な100名を越えていることが片岡議長から報告され、本年度総会の成立が宣言された。
4. 吉久庶務幹事より、下記の報告が行われた。
 - 評議員選挙、役員交代について報告が行われ、第5期の評議員・幹事が紹介された。任期は平成20年4月から平成22年3月。
 - 2008年7月15日現在、正会員611名(一般会員403名、学生会員188名)、寄贈・賛助会員は18団体、名誉会員は1名。会員数はほぼ横ばい。
 - 事務局から会費納入と会費自動引き落としへの変更の依頼、および、所属情報のアップデートの依頼があった。
5. 稲田前会計幹事から2007年度の収支決算の説明、会計監査委員による同決算の監査結果が報告され、異議無く承認された。
6. 坂本会計幹事から2008年度予算案が提出され、異議無く承認された。
7. 内藤集会幹事より、第10回年会の開催状況が報告された。
8. 第11回年会世話人の内海集会幹事から、第11回年会は2009年7月27日(月)～29日(水)に新潟市朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)で開催予定であることが説明された。
9. 片岡議長より、閉会の挨拶があり、総会が終了した。

日本RNA学会 第5期拡大評議員会議議事要録

日時： 2008年12月10日(水) 12:00～13:00

場所： クオリティホテル神戸 6階「ポートアイランド」

出席者：

5期評議員： 稲田利文、井上邦夫、大野睦人、坂本 博、塩見美喜子、谷 時雄、
中村義一(会長)、廣瀬哲郎

幹事他の参加者： 井川善也(編集幹事)、内海利男(集会幹事)、
坂本泰一(会計幹事)、塩見春彦、吉久 徹(庶務幹事)

欠席者：

5期評議員： 饗場弘二(副議長)、鈴木 勉

1. 中村会長が開会挨拶を行った。
2. 中村会長より、2011年 International RNA Societyの Annual Meetingが京都で開催されることが報告された。さらに、各種補助金の申請等に必要な当面の組織委員会の発足についての提案がなされ、承認された。
3. 中村会長より、第12回年会(2010年RNAミーティング)開催地および世話人(第5期集会幹事)の選出について、東京を開催地として鈴木勉氏を世話人とする提案がなされ、承認された。
4. 内海集会幹事より、第11回の年会運営に関して、学生のボランティアなどを特別に年会参加者と認めたい趣旨の案が提出され、承認された。
5. 吉久庶務幹事より年度途中の退会希望者に対する当該年の会費請求について、年会終了後は全額を請求する形に改めたい旨の提案がなされ、承認された。

(庶務幹事：吉久 徹)

2007年度 日本RNA学会 収支決算報告

2007年度（2007年4月1日～2008年3月31日）の学会会計収支予算は以下のようになりましたのでご報告いたします。

（2007年度会計幹事：稲田利文）

収入の部			
科目	予算額	決算額	備考
学会費	1,640,000	2,326,000	一般会員会費 1,903,000
賛助会費	330,000	540,000	学生会員会費 310,000
雑収入	0	3,749	入会金 113,000
預金利子	100	3,899	
収入小計	1,970,100	2,873,648	
前年繰越金	2,330,434	2,180,394	
合計	4,300,534	5,054,042	
支出の部			
科目	予算額	決算額	備考
事業費	1,150,000	1,771,423	
年報発行	150,000	214,883	No.16, 17
年会補助金	1,000,000	1,506,150	第9回開催
		50,390	第10回打ち合わせ
評議員費	110,000	129,200	
旅費・会議費	100,000	78,800	
その他	10,000	50,400	評議員選挙
業務委託費	682,500	682,500	クバプロ
一般事務費	280,000	189,245	
印刷通信費	170,000	172,950	会報発送等
庶務事務費	30,000	0	
雑費	80,000	16,295	振込手数料
予備費	50,000	0	
支出小計	2,272,500	2,772,368	
次年度繰越金	2,028,034	2,281,674	
合計	4,300,534	5,054,042	

監査報告書

監査報告書

日本 RNA 学会
会長 中村義一 殿

平成20年 6月18日

会計監査委員 岡田典弘

吉久 徹



2007年度日本 RNA 学会会計報告書について関係書類とともにその内容を慎重に監査した結果、正当であることを認めます。

2008年度 収支予算

2008年度（2008年4月1日～2009年3月31日）の学会会計収支予算は以下の通りです。

（2008年度会計幹事：坂本泰一）

収入の部			
科目	2007年度	2008年度	備考
学会費	1,640,000	2,604,000	一般会員会費 2,364,000 (7,500円×394名×0.8)
賛助会費	330,000	540,000	
預金利子	100	3,000	学生会員会費 240,000 (2,000円×200名×0.6)
収入小計	1,970,100	3,147,000	
前年繰越金	2,330,434	2,281,674	
合計	4,300,534	5,428,674	
支出の部			
科目	2007年度	2008年度	備考
事業費	1,150,000	1,200,000	
年報発行	150,000	200,000	
年会補助金	1,000,000	1,000,000	
その他	0	0	
評議員費	110,000	110,000	
旅費・会議費	100,000	100,000	
その他	10,000	10,000	
業務委託費	682,500	682,500	会員600名以上のため
一般事務費	280,000	280,000	
通信費	170,000	170,000	
庶務事務費	30,000	30,000	
雑費	80,000	80,000	
予備費	50,000	50,000	
支出小計	2,272,500	2,322,500	
次年度繰越金	2,028,034	3,106,174	
合計	4,300,534	5,428,674	

第11回RNAミーティング (第11回日本RNA学会年会)の準備状況について

第11回RNAミーティングを2009年7月27日(月)～29日(水)の予定で、朱鷺メッセ(新潟市)にて開催致します。新潟市は信濃川と阿賀野川の河口域に港町として発達し、現在では日本海に面した田園型政令指定都市となっています。朱鷺メッセは信濃川が日本海に流れ出る河口に近い新潟港の一角に設立されたコンベンションセンターで、ホテル日航と一体となり、大海に乗り出す大型船をイメージした建物となっています。日本海と新潟市を一望できるホテル日航展望室(懇親会会場)からの展望も素晴らしく、皆様の思い出に残る会になると思います。この地での討論が、新たなRNA研究の船出の機会を提供できればと念じております。準備委員一同、実りある年会開催を目指し企画しています。どうぞ、ふるってご参加くださるようお願い致します。なお、新潟へのアクセスは東京・新潟間の上越新幹線、各種空路の他、割安なJR各線や高速バスもご利用になれます。

【大会日程】

第11回RNAミーティング(第11回日本RNA学会年会・RNA2009)

会期：2009年7月27日(月)～29日(水)3日間

会場：朱鷺メッセ メインホール(スノーホール)

<http://www.tokimesse.com/>

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号

懇親会会場：ホテル日航展望室(31F)(7月28日)

世話人：新潟大学自然科学系(理学部) 内海利男

日本RNA学会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/rnaj/RNA2009/>

(RNA2009公式ホームページは平成21年3月初旬に公開予定)

日本RNA学会 会報

第19号 (2009年1月)

発行・制作：日本RNA学会 編集幹事

連絡先：九州大学

工学研究院 応用化学部門 井川 善也

〒819-0395 福岡市西区元岡744

電話：092-802-2866 (直通)

FAX：092-802-2865

E-mail：yikawa@cstf.kyushu-u.ac.jp